

NPO 法人岡崎がくどうの会

令和 5 年度第 1 回岡崎市放課後児童クラブ支援員研修会レポート

【日時】 2023 年 6 月 8 日 (木) 9 時 30 分~11 時 30 分

【会場】 岡崎市役所福祉会館 6 階大ホール

【内容】 「障害をもつ子どもとともに育ちあう生活づくりとは」

【講師】 佐々木将芳さん (静岡県立大学)

【クラブ】 (学童保育所つくしクラブ)

【名 前】 (西村 巧)

良くも悪くも事例検討会は月イチのカンファレンスでおおよそ慣れつつある。学童保育所には「障害を『持つ、持たない』」は関係なく必ず気になる子はおり、その子がいわゆる「問題行動」を起こす事はそこに従事する指導員は当然周知の事実だ。

そして僕らは「問題行動」は「問題行動」として捉え、それが悪しきものであると頭から決めつけ、そののみを「なんとかしよう」と躍起になる。

しかし、実はそれは「子ども (その子) の可能性を奪う事なんだ」という事は専門職でもなかなか気が付かない部分かもしれない。

出来ない事が出来るようになった事が成長ならば、実はその逆で出来ていたことが出来なくなるということもまた「成長」との事。

(なるほど、考えてみれば自分も昔は平気だった虫も今は触れなくなって嫌悪感を抱く。これも一種の退化の上での成長か・・・)

気になる子どものサインは個々の指導員が記憶していても、それはそこから発展しない。それをどんな形でも成長につなげるならば、やはり「記録」を取り、それを共有しながら関わり合い方を模索することが良い。

学童保育所には実は様々な可能性が秘められていて、気になる子が自分を見出すのには実は最も適した環境かもしれない。

やりたい事、異年齢交流、寄り添ってくれる大人 (指導員) の存在。

出来る事や出来ない事を一緒に見聞きし、関わってもらい、それが出来ても出来なくてもその子の存在を常に認めてくれる。

それらを認識した時こそ「気になる子」が成長する第一歩に繋がっていくのではないだろうか。

そう考えた時に今までの「問題行動」というものは「成長の過程」という明るい希望となり、きっとその子の生きる力を後押しするのだろう。

今回の研修を受けて最後に思ったことは、僕ら指導員も気になる子どもの成長のキーワードを見過ごすことなく貪欲に探っていきたいという事だ。